



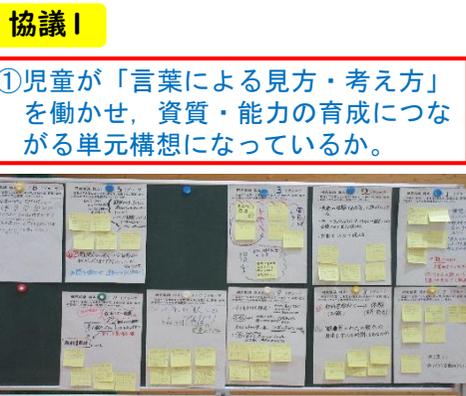
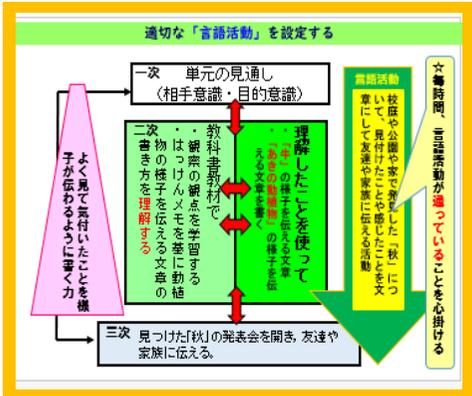
「高知の授業の未来を創る推進プロジェクトにおける令和2年度高知の授業づくり講座」では、学習指導要領が目指す授業づくりを推し進めるとともに、日常的に授業研究に取り組む風土づくりのために、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を目指し、拠点校を会場に教材研究会・授業研究会を1セットとして、年間2セット実施しています。今年度は

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため1セット目は校内研究として取り組みました。第3回授業づくり講座<教材研究会>から、校外の先生方にも参加いただいて、学び合える場が開けるようになりました。高知市の小学校国語の拠点校である秦小学校の教材研究会の様子を紹介します。

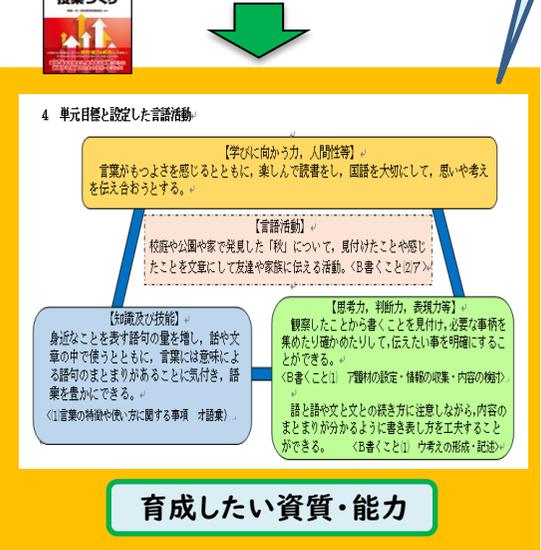
育てたい「資質・能力」単元を描く
単元名：いろいろなあきを 見つけた！！ 教材名：第1学年：「はっけんしたよ」（東京書籍 1年下）



学習指導要領解説・教材文・6(9)年間育てたい「資質・能力」を決め出す。



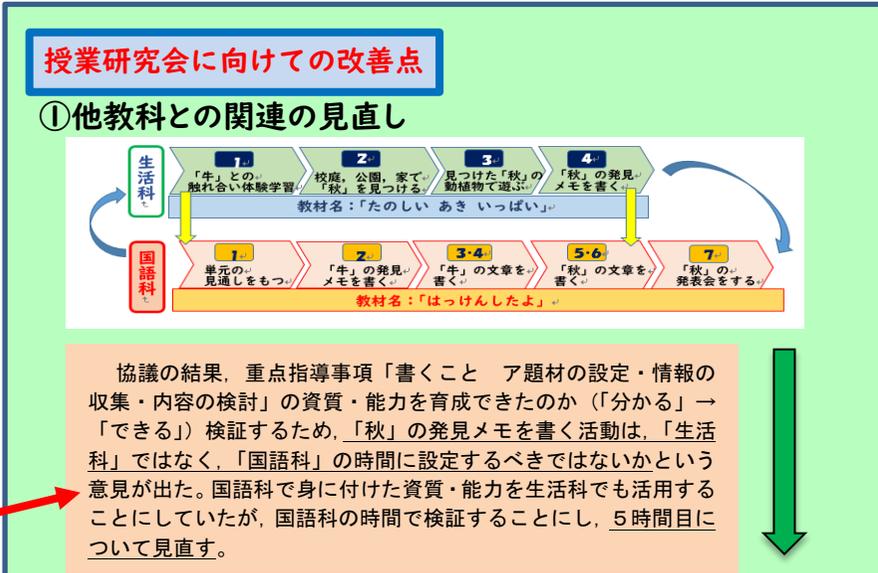
【研究協議より】
○相手意識・目的意識が明確で、子供が学ぶ必然性があり、本気になれる。
○生活科での触れ合い体験学習を題材とすることが、全員参加の手立てになっている。
★「観察のわざ」の観点が使える力になっているのか、具体的に見取る場面はあるのか。
★文章を書くことに課題のある児童が学習についてこれるのだろうか。



「言葉による見方・考え方」を働かせて「資質・能力」を育てる



【研究協議より】
○付箋の色を変えることで増えたことが分かりやすく、評価にもつなげることができる。
★B基準が明確で評価がしやすい。C評価への手立てをどうするのか。
★「観点のわざ」の言葉をどう引き出すのか。どんな手立てをとるのか。
★1時間の授業で内容が多い。評価も一つにしてみようか。



参加者の意見
★評価方法のように、B基準の具体的な姿を明確に書くことで、評価にぶれがでないことがわかった。単元で「何の力を付けたいのか」明確にし、学習指導要領を基に設定することが大切だと実感した。評価メモも活用してみたい。
★「言葉による見方・考え方」では対象や言葉に何を置き、二つの関係を言葉の働きなどに着目してどう捉えさせるのか、授業研究会での子どもの姿を見たい。



授業者(片岡 史衣 教諭)から
本単元の「言葉による見方・考え方」を働かせるために対象を動植物とし、観察の観点(わざ)を用いて、その特徴を言葉で表すという計画を立てた。そして、生活科において「秋を見付ける」学習の中で付けた力を検証するという計画だった。
今回の教材研究会を受けて本単元の中に第5時として、観察の観点(わざ)を使っているかどうかという時間を入れ込み、単元を再提案する。本時では、言葉による見方・考え方を働かせて書いている子どもの姿が見られる授業を提案したい。



③C 評価の児童への具体的な手立て
○予定していること
・授業の初めに触れ合い体験の写真等を見せることで、「牛」の様子について思い出させる。
・一人一人への聞き取りをする。
・困っている児童の意見を取り上げ、全体で共有する。
※授業研究会で具体的な事例について提示する。